



巻頭エッセイ	1
シリーズ「福祉にみる『いのち』」⑨	2
コラム「人間を考える」⑨	3
2022年度講座案内	4

同朋大学 “いのちの教育” センター
〒453-8540 名古屋市市中村区稲葉地町7-1
TEL 052-411-1373
Eメール宛先 inochi@doho.ac.jp

● 同朋大学 “いのちの教育” センターだより

今年度から新たに箕浦尚美准教授（人文学科）が所員に就任し、さっそく連続講座でお話しいただきます。連続講座全5回のご案内は最終頁をご覧ください。巻頭は昨年度講座でお話しいただいた鶴見晃教授（仏教学科）の玉稿です。また、社会福祉学部 渡邊幸良教授、宮地菜穂子准教授より、現代社会を生きる人間が直面している「いのち」の課題について、それぞれのお取り組みをもとにした玉稿をいただきました。一緒に学びたいと存じます。

2022.7.1 NO.56

真宗の「いのち」観

— 修道と選別 —

鶴見 晃

コロナ前、「彼女は安楽死を選んだ」（NHKスペシャル、2019年）というドキュメンタリーが話題となった。いわゆる積極的安楽死を選んだ彼女の姿に、自分だったらと考えた人も多いであろう。私たちは健康により良く生きることを求め、医療もまたそれに応えるべく発展してきた。しかしその要求は逆方向のベクトルで、老いや病気、障害に対する不安を高め、その生活の価値を低いもの、極端に言えば「生きるに値しない命」としかねない側面をもつ。安藤泰至氏（鳥取大学）は、現代医療は死なせないベクトルと死なせるベクトルが一体化していると批判している。

仏教は、釈尊の四門出遊の伝承に見るように、老病死を厭い、若さ、健康、生を求める愚かさを説く。それらはいずれも老病死に帰するものであるからである。そして老病死を苦しみと受け止める心を超えた、さとりに至ることを教える。それはより良い生を求める私たちへの問いかけとなるものであるが、仏教もまた死なせる

ベクトルに加担してしまう可能性がある」と安藤氏は警鐘を鳴す。

大乘仏教では菩薩道を説き、凡夫から仏までの壮大な修道の階梯を立てる。それはさとりに向う的に歩む道であるが、一方で善をなしえず悪を犯さざるをえない存在は、選別され、その道から洩れるほかない。しかし中国の善導は素晴らしい大乘行をなす者も悪を犯す者もすべて凡夫であると説き、親鸞は悪人こそ阿弥陀仏の救済対象であると説いた（悪人正機）。これは向上的なベクトルが孕む排除と差別を見つめ、人間のありようを向下的に把握したものと見える。そこに親鸞は「大乘のなかの至極」として選別なき仏道を確めたのであるが、浄土真宗の歴史もまた選別と無縁ではなかった。部落差別問題やハンセン病の隔離政策に加担してきた歴史に学びつつ、親鸞思想の意味を確認していかなければならないと考えている。

（文学部 教授）

“いのち”を大切にする子ども家庭福祉

宮地 菜穂子

総務省は5月5日のこどもの日にあわせ、2022年4月1日現在の15歳未満の子ども数が1,465万人との推計を公表しました。1982年より41年連続の減少であり、記録が残る50年以降では最少を更新しています。また厚生労働省の発表では2021年の出生数は約84万人と6年連続で過去最少を更新し、少子化に歯止めがかからない現状から、子育て支援は喫緊の課題だと認識されています。

こうした状況の中、改正育児・介護休業法が今年4月から施行されました。男女ともに育休を利用しやすくする内容で、「子育ては女性任せ」の意識や職場の慣行を改める契機にする狙いがあり、子育てしやすい社会の構築や新しい“いのち”の誕生を期待する政策だといえます。

一方、「コロナ禍での不登校最多、小中学生19万人で過去最多」、「自殺した小中高生は調査を始めた1974年以降最多」といった深刻な報道があります。また、我が国の社会保障審議会児童部会児童虐待等要保護事例の検証に関する専門委員会

の報告（2021年8月）によると、子ども虐待により死に至るケースで一番多いのは0歳0か月の赤ちゃんであるという衝撃的な事実があります。加害者内訳は5割強がその子を産み落とした母親です。これらの現実、尊い“いのち”を自ら、或いは体内で10か月間育ててきた親自身によって失っていることを示しています。

さらに、様々な理由により血縁関係のある親と生活を共にできない子ども達を社会全体で育む“社会的養護”が必要な子ども達は現在全国で約4万2千人であり、原則18歳で社会へ送り出されています。しかしアフターケア体制は未だに不十分であり、頼れる親が不在な中、多くの若者が非常に厳しい状況下で生活しています。

統計によって可視化される少子化という現象から子ども家庭福祉を考える時、そもそも今、ある一つ一つの“いのち”を大切に育むことができているのだろうかということに立ち返る必要があると感じています。

（社会福祉学部 准教授）

コラム 「人間を考える」⑨

人間を考える

渡邊 幸良

「汚いから近寄ったらダメ」「あんな人間になるなよ」という怒鳴り声が、親子連れの自転車の父親から聞こえたのは、1998年の夏、私が川崎市でホームレス調査をしている時だった。私は頭を殴られたようにショックを受けたが、そのホームレスは何もなかったように歩いていた。

もちろん、ホームレスは、汚く、怠け者の様にみえる。ラベリングとはこのようなもので、行動や身なりなどの見える部分からマイナスイメージが湧き出て、固定化され一般化されるのである。人間は、無意識のうちに自分たちの価値尺度を使ってしまう。自分たちの価値観と衝突するような異質な存在に対して、当然「好ましくないもの」というレッテルを貼る。そして、偏見となり、批判的で差別的な態度となり、異質な存在を排除していくのである。

ところで、「働かざる者、食うべからず」とは、まさしく資本主義制度の黄金律であ

る。産業革命や市民革命を経て、人間は自由を手に入れてきたわけだが、同時に自己責任としての自助（セルフヘルプ）を自分に課さざるを得なくなった。つまり、自助できることが前提となって、自己決定できる人間の自由が成り立つのである。しかし、人間は、幼いときは仕事ができないし、病気や障害になることもあり、失業することもあるし、老いを避けることはできない。自助をしようとしても限界があり、資本主義社会には矛盾がある。

したがって、社会の平和と平等を目指すには、排除された人々を包み込み、限界のあるため自助ができない人々を包み込むこと、つまり社会的包摂をすすめなければならない。社会保障を研究する一人として、人間を考えると、排除と自助の限界をどうすれば解決できるかを考えてしまう。

(社会福祉学部 教授)

同朋大学“いのちの教育”センター講座一覧

連続いのちの講座 テーマ “いのち”の教育

会場 Do プラザ 閲覧
無料

9/27(火) 16:20～17:50

戦争犯罪者のお念仏

講師 青木 馨 (同朋大学仏教文化研究所 客員所員)

10/25(火) 16:20～17:50

生涯を支える幼児期の教育

講師 吉田 とき枝 (本学 社会福祉学部 特任講師)

11/15(火) 16:20～17:50

福祉の視点から見る「生きる」ということの尊厳

講師 工藤 隆治 (本学 社会福祉学部 教授)

12/6(火) 16:20～17:50

お伽草子に見る中世の転生観

講師 箕浦 尚美 (本学 文学部 准教授)

1/17(火) 16:20～17:50

人と生まれたことの意味をたずねていこう

講師 市野 智行 (本学 文学部 専任講師)

開催の有無、実施形態についての最新情報は「大学HP公開講座欄 (<https://www.doho.ac.jp/>)
でご確認いただくか、下記までお問い合わせください。

所 員

センター主幹：安藤 弥 (文学部 教授)
所 員：箕浦 尚美 (文学部 准教授)
所 員：北島 信子 (社会福祉学部 教授)
所 員：岩瀬真寿美 (社会福祉学部 准教授)
所 員：市野 智行 (文学部 専任講師)

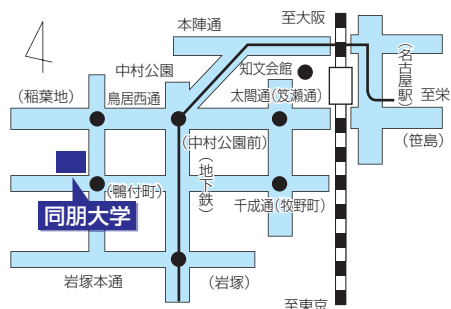
お問い合わせ先

同朋大学 “いのちの教育” センター

〒453-8540 名古屋市中村区稲葉地町7-1

☎ 052-411-1373

同朋大学 周辺地図



交通 市バス／栄又は笹島より②系統稲西車庫行、鴨付町下車
地下鉄／中村公園より⑨系統稲西車庫行、鴨付町下車